



photo by Jun Nakajima (KAZI)

### 300校のヨットスクールを統括 チャーリー・ノブルス アメリカを中心に

教育システムを作らなければということ、スクールのプログラムがスタートしました」

レースをするわけでもないし、わざわざスクールなんて……と思う人も多いだろう。それでは、なぜアメリカではスクールの存在が広く認められ、多くの受講者がいるのだろうか。

「アメリカにはヨットレンタルやチャーターの会社が多くあって、住んでいる場所に関係なく、東海岸のワシントンでも、西海岸のカルフォルニアでも、資格があればヨットを借りて、セーリングを楽しむことができます。また、以前はアメリカでもヨットはお金持ちだけの遊びというようなムードはあったのですが、ボートメーカーやマリーナなどの関連業界が『これではいけない』ということで、変わっていったのです。(そういった関連業界の協力もあって)ASAの卒業生やメンバーには、チャーター費用やマリーナの施設使用料、レストランなどで、さまざまな割引特典があります。スクールも最初から盛況だったわけではありませんが、ここ2、3年は

急激に増えていて、毎年1万人近くの人々がベーシックコースを受講しています」

マリン関連業界がスクール運営に協力することで証明するように、20ページほどの会報誌には、チャーター会社を中心に多くの広告スポンサーが名を連ねている。活況を呈しているASAは、今後どこへ向かうのだろうか。

「もっと多くの人にセーリングの素晴らしさ、そして平均的な収入の人でも楽しめることを知ってもらいたい。また継続的に楽しんでもらうためにも、情報発信は重要なことだと考えています」

6歳からデインギーに乗り始めたというチャーリー氏。自身は現在はどういうセーリングを楽しんでいるのだろうか。

「実は今は船を持っていないんですよ(笑)。十数種類のボートを自由に借りられるレンタルクラブに所属していて、ロサンゼルスやサンディエゴなどでシヨットセーリングを楽しんでいます。メンテなどにわずらわされることもないですし、今は少し忙しくて、そのほうがメリットが多いんです。誰もいないようなアンカリングポイントを探したりするのが好きですね」(JN)

アメリカン・セーリング・アソシエーション(ASA)という組織がある。連盟や協会と聞くと、セーリング競技を統括する団体というイメージを持ちやすいが、さあらず。外洋ヨットでのセーリングの普及を目的としたアメリカの団体である。主な活動は、体系的なプログラムを持つヨットスクールの運営や統括、そして卒業生へのアフターフォローだ。

ヨットスクールは厳しいライセンス制度になっており、基礎クラスからインストラクター資格まで7段階。アメリカ国内で約230校、世界では300校を超えるスクールで、プログラムを共有している。そのASAのエグゼクティブディレクターを務めるのが、チャーリー・ノブルス氏だ。

「我々がテーマとしているのは、セーリングは誰にでも楽しめることを知ってもらうこと。ですから、乗りかただけではなく、ヨットを所有することや楽しみかた、クルージングの知識など、さまざまなプログラムを用意しています」(チャーリー)

ASAは300ある認定スクールを通じて、これまでに延べ25万を超えるライセンスを発行してきているという。日本にはないこのようなシステムは、どのようにして生まれたのだろうか。

「ASAが生まれのは約20年前。最初は、ヨットチャーター会社(がゲストに船を貸し出す際に技量をはかるため)のスタンダード作りからスタートしました。スタンダードができたのなら、それに合った